

第5回銚子市行財政改革審議会 会議概要

日 時：平成28年9月23日（金）午後1時30分～午後3時35分

場 所：全員協議会室

出席者：委 員 大塚委員、伊永委員、館野委員、岡田委員、野口委員

銚子市 越川市長 島田副市長 飯田理事 宮澤政策企画部長 長島総務市民部長
石井健康福祉部長 笹本産業観光部長 椎名都市環境部長 山口教育部長
山口消防長 野口水道課長 安藤秘書広報課長 伊藤企画課長 宮内財政
課長 山口総務課長 林保険年金課長 網中税務課長 林医療対策課長
石田都市整備課長 越川生活環境課長 柴教育総務課長 井上学校教育課
長補佐 菅澤消防次長

事務局 小保方課長補佐 野口主査 猪田副主査

傍聴者 市民3人、市議会議員10人 ほか報道各社

事務局	<p>1 開会</p> <p>ただいまから第5回銚子市行財政改革審議会を開催します。 (傍聴者に対する注意事項説明)</p>
伊永会長（議長）	<p>2 議事</p> <p>次第に従い議事に入ります。</p> <p>議題に入る前に、前回の会議の中で民間企業のような財務諸表の作成をしてほしいということをお願いしました。今回、資金収支計算書を出していただいておりますので、説明をお願いします。</p>
財政課長	<p>(資料1に基づき説明)</p>
大塚委員	<p>資金収支計算書をどう見るかということ、経常的収支、公共施設整備収支、及び投資・財務的収支という3つの収支がどう釣り合っているかを見るということになります。その点でいうと、非常にはっきりしている点が2つあります。1つは、税収を日常業務で使って、その残った部分である経常的収支の黒字部分の大部分が地方債償還額に使われてしまっている。つまり、銚子市においては債務負担が大きいということが数字の上でも明確に出ていると言えると思います。もう1つは、公共資産整備収支の26年度と27年度を</p>

比較すると、26年度は全体の支出額が22億円弱あったのが、27年度になると14億円と3分の2になってしまった。つまり借金を返すのに資金が使われていますので、設備投資の方にお金が回らないこともはっきり出ております。なお、平成29年度からこの資金収支計算書の作り方が変わり、現在は地方債発行額を3つに分けて計上していますが、新しい基準では、全てまとめて3番目の投資・財務的収支になります。ということは、経常的収支の収入から地方債発行額が外れることになり、経常的収支の余裕度は、実際にはもっと低くなるということで、そういう点からすると、安心できるものではない。むしろ厳しいということが出て来ている数字だと言えらると思ひます。

伊永会長 26年度に比べて27年度の投資的経費が減っていることについて、何か説明はありますか。

政策企画部長 確かに減っていますけど、2番目の公共資産整備収支の部の2行目の公共資産整備補助金等支出のところは26年度6億7,000万円から27年度1億4,400万円と大きく減ってしまひて、これが銚子漁港第一卸売市場の整備の補助金の部分で、財源も全て国・県支出金等で賄われておりますので、収入の国県補助金等もその分減っています。それから単独の部分については、1番上の公共資産整備の部分も15億円から11億円に減っています。これは小中学校の耐震整備が27年度で完結するように整備を進め、26年度の方が事業費が多かったせいかと思ひます。

大塚委員 27年度について減ったことの理由は説明できるのかも知れませんが、将来的な公共施設等の管理維持経費というものを考えると、減らしたままには当然できないだらうと思ひます。そういうことを考えれば、やはり余裕がなくなっている事実が資金の上ではある訳ですから、そこは問題として認識してもらいたいと思ひます。

政策企画部長 おっしゃるとおり、今後公共施設の再編・統廃合を進めていく中で、その部分の財源をきちんと確保していく必要は当然あるかと思ひます。

舘野委員 この資金収支計算書は財務諸表の1つですけど、資料4の17ページ財政

の「見える化」の推進という項目で、そのことについて触れてあります。ただ、この表だけを見て分析するというのは、市民の方には難しいことだと思いますので、是非、市の財政の皆さんには、今後こういった計算書、財務諸表を分析して、こういった表によると銚子市の財政状況はこうですよということを、是非とも市民の方に分かりやすく説明して行革を進めてもらいたいと思います。

岡田委員

この資金収支計算書を見ると財政状況が良いという印象を受けますが、大塚委員や館野委員の話を聞くと、やはり我々の分からない部分があります。資料4の17ページの最後の「わかりやすい広報の実施」というところに関連するのですが、今、銚子市が黒字になったといろいろな所でマスコミに出て、一様に認識が甘くなっているのを非常に心配しています。厳しい状況は変わらない訳で、その辺のわかりやすい広報というのをもう少し頭に入れて実施してもらえればと思います。

政策企画部長

29年度から新しい制度に変わりますが、その前の今の予算の状況であるとか、決算の状況であるとか、確かに市民に分かりにくい部分があります。今年度から「わかりやすい予算書」という形で、図、絵やグラフを入れたものを作成してホームページにアップしましたが、当然、決算もそういうものを作るべきではないかというご意見が議会の中でありましたので、今年度から作成しますと答弁させていただきました。そういった市役所の中だけで分かるものだけではなくて、市民にもっと分かりやすいような書式で公表していきたいと考えております。

伊永会長

本当に黒字が容易にできるのであれば、審議会としても黒字にした方がいいと思いますが、決してそういう状況ではない訳で、一生懸命に小さな積上げをして、無理やり黒字にしています。過去にあったような銚子は赤字だということで、風評被害を受けるようなことがあってはならない、そのあたりは気を付けようということで委員5人の中では一致しております。ただ、どちらかと言えば黒字のデータだけが一人歩きして、表に出ていくというような傾向がありましたので、市民の方に、全体的にどれだけ努力を重ねてここまでこぎ着けているのか伝わるように、そしてこれは大きな前提条件をいくつも積み上げた上でやっていることですから、その中の1つでも崩れると、

即座に赤字に陥る可能性がありますので、そういう非常に危ない橋を渡っているということをどうやって伝えていただくか、ということのをこれからも引き続き検討してもらいたいと思います。

大塚委員

銚子市のホームページで公表されている「わかりやすい予算書」を拝見しているのですが、率直に言って分かりにくいです。何が問題かという、出てきた金額の大小を判断する材料が何もないことです。少なくとも前年度との比較であるとか、あるいは他の団体との比較がないと、数字の意味はわかりません。これだけ見ても市民の方は分からない訳で、これをもって分かりやすいという考え方をされているところから考え方を変えてもらわないと、本当の意味で市民に情報を伝えるという形にはならないという気がします。

政策企画部長

わかりました。今回初めてで、少し中途半端かなという感じは否めませんので、27年度の決算は、もう少し他と比較して、近隣と比較してというようなものは、できるだけ取り入れられるようにしたいと思います。

伊永会長

少なくとも前年度との比較は難しくない訳ですから、そのように客観的な見方ができるようにしてもらえればと思います。それでは資料1については、この程度にいたします。次に資料2にまいります。前回の会議で出ていました市立病院の変動損益計算書ですが、変動損益計算書を作ることは今回もできていませんが、それに見合った説明をするということで聞いておりますので、説明をお願いします。

医療対策課長

(資料2に基づき説明)

野口委員

収入の実績でかなりいい数字が出ていますとお聞きして皆さんの努力が感じられます。変動損益計算書の件は先ほどの説明で理解しました。平成28年度では、医薬品費については10パーセント、診療材料費については6.4パーセント、全部合わせると3割くらいが材料費に掛かるということで、例えば療養病床について収入が15,000円とすると、4,500円くらいの材料費が掛かるという認識でよろしいですか。

医療対策課長

給食材料費、寝具委託費、給食委託費については入院にのみ掛かる率で計

算しています。それ以外は入院、外来、保健予防の報酬を基に算定をしていますので、それぞれ足していくとそのような形になるかと思います。

野口委員

市民に説明するときに、大きな数字を言っても説得力がありません。そういう意味では、例えば、単価が15,000円で材料費が4,500円、残り10,500円のうち人件費を引くといくら儲かりますと、その積み重ねが何億円又は何千万円になりますという説明をしていかないと、市民の方も実際に病院は改善されているのか不確かであると思います。このような説明の仕方が大事ではないかと思いますので、是非そういう内容の資料を作るようお願いしたいと思います。

医療対策課長

市民の方に分かりやすい資料ということで、考えたいと思います。

伊永会長

最後のページに常勤医師の数を出していただきましたけど、以前の再生機構の時代は、ずいぶん医師を集めるのにコストが掛かるような話を聞いておりました。再生機構から公社に移るときに付いてきてくれた医師が27年度末で3人くらい辞められたと聞いていますが、現在、過去最高の9人という医師数まで増やしている。これはどのような取組をしているのか、また、この数を維持していく工夫と2つ教えてください。

医療対策課長

再生機構のときは、広告宣伝費ということで医師を集めるイメージづくりというような形で、経費を使ったというような記憶です。現在はそういうものはやっていませんけども、まず1つは、院長が知っている医師に声をかけて、来ていただいた医師もいらっしゃること、それから医師紹介会社をお願いして医師に来ていただきますが、実際市立病院を見学して納得していただかないと来ていただけない訳で、やはり病院の方がそういう面で適切に対応して、医師に来ていただく努力を続けていることが実っていると考えられます。今後も医師の数を維持しながら、また、市立病院の方では、常勤の整形外科の医師が欲しいというようなことで、その募集も一生懸命やっているようですので、そのように医師を確保していきたいと思います。

伊永会長

建物の設備が古いと聞いていますが、持続性は大丈夫ですか。

医療対策課長	市立病院が主にできたのは、昭和59年と60年という時代で、30年以上経っております。そのときの施設をそのまま使っている訳ですので、今後メンテナンスをどのようにやっていくのか、そのまま使い続けるのか、更新をするのか、そういう検討をしなければならない時期に来ていますが、やはりこういう経営の状況ですので、なるべく経費が掛からない方法で、検討していかなければならないと考えております。
伊永会長	市立病院という形ですが、公社ですので、何かあれば公社がお金を積み立てて設備の改善をするという理解でよろしいですか。
医療対策課長	設備は、市が準備をして、それを指定管理者にお貸しするという方針ですので、施設に関しては市が責任を持つということです。
舘野委員	変動損益計算書は使っていないということでしたけど、一定のシミュレーションをしながら経営をされているということは、委員全員が理解できたと思います。さらに28年度については、シミュレーションした結果を上回っているということですので、非常に努力されていると思います。こういった状況というのは絶えず変化してくるものですので、状況を絶えず把握しながら、必要なシミュレーションの見直しをして、経営が安定するように引き続きご努力いただければと思います。一般会計の方としてもある程度の負担というのは、施設の改修経費など行政の方で持たなければならないものも当然あると思いますので、そういった経費の役割分担というのは、財政課ともお話ししながら運営してもらえればと思います。
伊永会長	それでは次に財政収支見通しをさらに詳細に見直していただきましたので、資料3の説明をお願いします。
財政課長	(資料3に基づき説明)
伊永会長	2ページ目の国保の基準外繰出しに、全く数字が入っていない理由はなぜですか。
財政課長	下の欄の※注2で記載したとおり、今後1年間かけて国保の運営協議会の

中で、保険料の改定と基準外繰出しのあり方について協議をしていただくことになっており、今の段階で数字をお示しすると、誤解を招くおそれがあるため入れておりません。

伊永会長 ということは、数字はゼロではなくて入る訳ですね。26年度は参考までにどれくらいの数字が入っていたのですか。

財政課長 基準外繰出しは、26年度には4,711万3千円支出しましたが、これは26年度分ではなく、25年度分の9,711万3千円を一般会計の都合で25年度と26年度の2か年に分けて、25年度に5,000万円、26年度に4,711万3千円を支出したもので、平成26年度分としての基準外繰出しはありませんでした。

伊永会長 国保の基準外繰出しも増える方向にはあるのですか。

政策企画部長 今の段階では何とも言えません。というのは広域化になる予定で、保険料率がどのように銚子市に示されるかまだ分かりません。ただし、27年度から繰上充用をしまして、今年度もおそらく収支としては不足になる見込みです。それを30年度以降どのような形に保険料率を改定するのかによって、基準外の繰出しをどうするかということを決めてもらうために議論していると思いますので、金額を置くことも考えましたが、置いたら置いたで、それが一人歩きしかねないという部分があるので、今回は欄外の説明で空欄にしております。

伊永会長 3ページ目の経常収支比率ですけど、緊急改革プランでは、28年度末に90パーセントにするという目標を定めていますが、この数字を見ると達成できないということのようです。また、30年度から33年度のように95パーセントを大きく超えていくと、ほとんど動かせるお金が全くないという感じになりますので、歳入を新しく作る努力と、財源を確保するというところに必死になっていただく必要があると思います。それで経常収支比率を90パーセントくらいまでにしていかないと、銚子市として、どんどん息苦しくなってくる財政になりますので、そこは新しい財源を生み出すということに、全庁を挙げて知恵を絞る必要があるのではないかと思います。何かお答えい

ただくことがあればうれしいですけど、こういうことを実は考えているということがあれば教えてください。なければ是非なんとかしていただきたい。

政策企画部長

経常収支比率は、この資料の1ページ目の市税と地方交付税の減り方が、次のページの義務的経費の減り方よりも大きくなっているような状況ですので、経常収支比率が徐々に上昇していきだろろうと思います。歳出の方は公債費も借金をできるだけ減らし、人件費も扶助費も減らすような形で見込んでいますが、それ以上に税金の収入の見込みが減るであろうと、そうすると人口減によって交付税も減る見込みですので、どうしても市税の収入のアップを図らなければ、経常収支比率の改善というのは見込めないような状況かと思えます。担当課では徴収率を増やすということをおっしゃってありますが、それだけでは当然限界がありますから、市税の調定額が増えるような取組をしていかなければ、経常収支比率の改善には繋がらないと思えます。

伊永会長

徴収率も頑張っているのは、よく伝わってきておりますので、これも引き続き努力をお願いしたいのですが、ここで必要なのは、何とかして新しい恒久的な財源を見つけることだろろうと思えます。歳出を減らすというのは、銚子市が疲弊する大きな要因にもなりますので、新しい財源を見出す努力は、銚子市が財政再建を果たすためには必須なのではないかと私は思っています。

大塚委員

今回組み入れた広域ごみ処理施設運営に関する補助金の3億円について、それによって別の経費が減ると思えますが、広域になることによって減る部分と相殺したら、どれくらい負担は増えると考えたらよろしいですか。

政策企画部長

物件費のところは清掃センター管理という項目がありますが、前年度までの3億5,600万円という部分が直営でやっていたときの経費です。33年度から広域になりますが、従来の施設がすぐに無くなる訳ではないので、とりあえず5,000万円くらいの管理経費は残るということで、3億600万円程度は減ると見込んでいます。ただし、広域化になるために、ほぼ同額の3億400万円の負担額が発生するという形です。

大塚委員

それでは、実質的には変わらないという考えでよろしいですか。

政策企画部長 管理経費については、そうは変わらないと思います。ただし、投資的経費の通常投資分で清掃センターという部分については、清掃センターの機器等の維持改修の経費が9,000万円、それから31年度で5,000万円と減って、32年度と33年度は900万円と500万円で、そのあたりが減るのではないかと見ております。

大塚委員 道路の老朽化対策分に関しては、そのための事業が終了してゼロになるということで、通常投資分を増やしているということですが、計画期間中は通常投資分と老朽化対策分を合わせて3億3,000万円くらいの金額ですので、それが1億円では相当に少なくなっているように見えるのですが、実際足りるのでしょうか。

政策企画部長 実際道路の改修の需要は多いですから、当然足りる額ではないかとは思いますが、27年度の決算額を見ると道路の通常投資分と老朽化対策分で1億3,300万円くらいしか実際できておりません。これは老朽化対策の補助制度がなかったもので、長寿命化を図るような工事はなかなか着手出来ませんでした。それを28年度から国の交付金を使って5年の計画でやるということですので、33年度にその制度が終わった段階で、どこまで道路の通常投資分を戻せるかというのは分かりませんが、とりあえず1億円は最低限置かなくてはならないということで、現時点では1億円で置いたという状況です。

大塚委員 公共施設等総合管理計画のインフラ整備の要支出額と辻つまは合っているのですか。

政策企画部長 公共施設等総合管理計画で、道路は年平均8.2億円程度の今後更新費用が必要だろうということですので、補助事業は5年間ありますけど、それを過ぎた途端に1億円に減る、あるいは5年間の計画の期間の中で一番多い年でも5億円弱という予算見込みですので、当然計画の8.2億円には全く及ばない状況になっています。

大塚委員 5年間の対策を執られるというのは非常にいいことですし、その後の投資

額が減るといふ見込みも決して間違いではないと思いますが、ただ、全部無くなるということはないと思いますので、この部分はしっかり見込みを立てていただきたい。また、収支の見通しのお話を伺っていて違和感を持つのは、計画がないであるとか、ハッキリしていないものがゼロとして計算されていて、当然その分支出が少なくなっている。企業会計では保守主義という考え方があり、将来に向けて可能性が高い見込みの費用は計上しなければならないという絶対のルールがあります。ところが今回の見通しの中では、見込みの費用で入っていないものが非常に多い。それで黒字だといってもやはり問題があると思います。この見込みのやり方が間違っているとは申しませんが、でもその数字の使い方として、まだハッキリしていない部分が入っていない数字であるということは、常に説明しながらこの数字は使っていく必要があると思います。

もう1つは、33年度に財政調整基金が800万円になってしまいます。特に平成30年度と33年度を比べて、単年度収支が3億円くらい大きくマイナスになっていますが、どういう理由でこうなっているのか、また、その点が34年度には改善されるのか、34年度このままだったら、普通に考えれば実質収支も赤字になってしまいます。この点について何かあれば説明してください。

財政課長

30年度と33年度を比較すると、1番大きいのは市税の減少で、30年度が76億6,600万円、これに対して33年度は71億5,400万円と約5億円減少します。もう一つは地方交付税の普通交付税で、33年度が次の国勢調査の人口が反映されるということで、30年度と比較すると33年度は約2億2,000万円減少し、市税と合わせると約7億円強が減少します。これが一番大きな要素ではないかと思えます。次の34年度はどうなるのかと申しますと、この2つの数字が劇的に改善するというようなことは、今のところ想定するのは難しいことかと思えますし、それから歳出の中で公債費は30億円ベースで推移して、これも急に減るといふことは考えられませんので、結果として34年度の実質収支はもっと悪い数字になるのではないかと思えます。

大塚委員

はっきり言えば34年度は赤字転落ということですね。

財政課長 このままこれ以上の策を講じなければ、そういうことになり得るのではないかと思います。

大塚委員 それだけ厳しい状況だということ踏まえて、この間の対策として歳出削減をしていかなければいけない訳で、正直言うと今回の見通しは、大変に厳しい見通しだと思います。最後に要望ですが、3枚目の表に財務指標を挙げていただいて、非常に分かりやすくなっていますが、最後の実質公債費比率の部分については、統一的な基準に対して債務償還可能年数という指標を積極的に推しています。つまり収支の余力に対する債務の大きさを見なさいということを経済省が言っています。統一的な基準が導入されていく中で、経済省からも公会計のマニュアルとして統一的な基準の数字の使い方の指針が出ていますので、それを踏まえて指標についても見直しをしていただけたらと思います。

野口委員 ふるさと納税を毎年2億円ずつ見込んでいますけど、毎年寄附をしてくれるリピーターを作っていくための対策として、どのような考えがあるのか教えてください。

企画課長 今年度は、広告宣伝の一環としてリピーター確保のために「かもめ〜る」というものを使って、昨年度寄附を頂いた方に、今年もよろしくというような内容で、はがきを送っています。今後さらにいい方法を検討しておりますので、何らかの形でリピーターを確保するような対策をしていこうと考えています。

野口委員 できれば電話で連絡が取れるなら、是非そういう手段を選びながら検討していただきたいなと思います。

政策企画部長 企画課長が申しました「かもめ〜る」は、暑中見舞いのはがきですけど、去年頂いた方に今年も頂ければ、今年「かもめ〜る」を送った人だけに「ちょーびー（銚子市公認キャラクター）」というメッセージを書いて送ってくれば、銚子の特選の記念品を抽選で何名の方にあげますと、昨年度の寄附者に限定してはがきを送りました。そうすると昨年度の寄附者で、同じようにもう1回リピーターとして寄附をしてくれたという方が、7月と8月

に相当数おりますので、今後もそういった形で囲い込みをしていく必要があると感じています。

伊永会長

いろいろな工夫をしているということですが、銚子市の職員の方で、銚子の外に住んでいる方はふるさと納税ができます。そういう方はやっていますか。

政策企画部長

かなりの人数の方をお願いしています。ボーナス前は庁内のパソコンの掲示板でお願いしていますし、学校の先生であるとか、そういった方にもお願いできるようにお知らせの通知を送っておりますので、今後12月のボーナスに向けて、数は増えていくと思います。

野口委員

銚子の方がふるさと納税をすると税収が減ってしまうので、どこかで逆転している市町村が出ていることを聞いたことがあります。銚子の方にも認識してもらうために、そういうメッセージをお出しすることも必要かと思えますので、お願いしたいと思えます。

岡田委員

経常収支比率は、26年度に97パーセントとなるなど、非常に高く財政が硬直化していて、これをいかに下げていくかということをお大綱に書いてあります。その中で27年度は93.4パーセントと下がっていますが、33年度になると98.1パーセントとかなり高い数字になっています。しかし、これまで審議会の中でも歳出の削減というのは、かなり努力されていると思えます。これをやりすぎますと負のスパイラルに入り、もっとひどい状況になりますので、やはり歳入を増やすということを官民ともに全力でやっていかなければいけないと感じました。それと経常収支比率の中で、人件費であるとか公債費などを分けた経常収支比率というのは、分かるのでしょうか。

財政課長

27年度は、全体で93.4パーセントという数字ですが、性質別の内訳としては人件費が32.5パーセント、扶助費が9.0パーセント、公債費が20.5パーセントとここまでが義務的経費の経常収支比率です。これ以外に物件費が11.4パーセント、繰出金が16.7パーセント、その他の経費で3.4パーセント、合計で93.4パーセントとなります。平成28年度以降の経常収支比率の推計は、今のところ性質別の分析までしていません

るので、後ほど分析ができましたらお知らせしたいと思います。

館野委員

今回、せっかく財政フレーム作ってもらいましたので、この要旨というのは、行革大綱の中に載せるべきだろうと思います。現時点では資料4は21ページで終わっていますが、少なくとも資料3の3ページ目の参考という行革の見込額を一括して分かりやすい形にした表は、重要な表だと思いますので、まずこれは載せるようにしてもらいたいと思います。その結果として行政改革をすることによって、財政推計では平成33年度最終的に累積赤字はないという形になります。これは赤字を出さないという市の決意だと私は受け止めていますので、これを達成するためにこれだけの行政改革を行っていくということが、市民に1番説得力が有るものだと思います。財政収支見通しをそのまま載せる必要はありませんが、ある程度市税であるとか交付税であるとか、支出の方であれば繰出金はトータルでどれぐらいであるとか、赤字にならないようにこれだけの行政改革をするというのは、この行革大綱自体の肝だと思っていますので、どこまで載せるのかというのは、色々お考えもあるようですので、その辺を載せる形で市の方で調整いただければと思いますが、これはいかががお考えでしょうか。

伊永会長

今回の収支見通しは、銚子市が風評被害を受けるような性質のものではないと思いますがいかがでしょうか。

政策企画部長

今回は赤字になるような形に作成していませんし、館野委員がおっしゃるように当然33年度までは赤字は出さないというスタンスの中で作成したものですので、そういった考えは変わらないと思います。風評被害を受けるようなものは、ここでは出ていないとは思いますが、先ほどお話があった34年度のところにいくと、どうなのかなとは思いますが。

伊永会長

こういう数字を見れば客観的に銚子市民が納得するということであれば、出す意義があるかと思います。最終的にどうするかは市長以下のご判断が必要だと思いますので、次回までに考えていただければと思います。この件は以上でよろしいでしょうか。それでは本日の議題に移りたいと思います。資料4の変更した箇所だけを説明してください。

財政課 (資料4に基づき説明)

伊永会長 14ページの補助金の見直しを復活していただきまして、最後の文言を「減額または廃止する」ではだめですか。

野口委員 私が書いた資料では、「減額、停止または廃止」と停止もありましたが、検討するというのは、現実問題として銚子市にお金がない状態ですので、このような余剰金があるところは、減額あるいは制度的に停止していく、あるいは廃止するというのでよろしいのではないのでしょうか。

政策企画部長 実際に予算の査定の中でも、任意の団体で繰越金があるようなところは、前年度と同額ではなくて、繰越金が解消するまではしばらくお休みするというような補助金の出し方を実際していますので、検討するという少し弱い書き方になっていますけど、「減額または廃止をする」という書き方に変えても差し支えないかと思います。

伊永会長 国ですと返還させるになりますが、その必要まではないと思います。

政策企画部長 銚子市では、補助金を出して翌年度に繰越金があるような場合は、返還ではなくて前年度の補助金の残った部分を差し引いた分を翌年度に出すというような形をとっておりますので、返還まではさせていないです。

伊永会長 停止を入れる必要はありますか。

野口委員 減額と廃止の間に停止というのを入れておかないと、その組織自身が残ることが出来なくなってしまいます。できれば停止という文言を入れておけば、段階的に減額、停止、最後に廃止という流れになります。その代わり文言的には「検討する」ではなくて、「する」にしてもらいたいと思います。

政策企画部長 先ほど申しましたように繰越金が多いところは2年、3年一時的に停止をして、その後、繰越金等が解消したときに、また補助金が戻るというようなこともありますので、停止という言葉を入れるように考えます。

大塚委員

10ページの債権管理の強化をご説明いただいた件で、内容を伺っている限りでは非常に良いことだったのですが、大綱としては、他のところも全て一応いつまでというのを明確にしている形の書き方をしています。ですからこの部分についても、ただ「5年以内に」を削除するだけではなくて、いつまでというか、少なくとも大綱期間内に実施することが分かるような表現にした方がいい気がします。ご検討いただきたいと思います。

政策企画部長

了解しました。

伊永会長

他にありませんか。それでは大綱の本文はまとまってまいりました。最後の5番目に「第7次大綱において行革効果を上げるべき喫緊課題」というのを設けさせていただきました。これは前回の審議会で全員一致でこういうものがあつた方がいいということで決まったものですが、これまで意見書は頂いていますが、すり合せが終わっていませんので、その部分が残されております。この会議が終わり次第、そういう作業を委員5人でやって次回までに成案を得られるように努力させていただきます。これを設けた理由について少し補足しておきますと、岡田委員からコメントがありましたが、最近銚子市内において、銚子市は黒字になったからもういいじゃないか、というような声が聞かれるようになってきました。しかしながら、これは、今までの審議会の議論を聴講されてきた方は、大きな間違いであることはよく承知していると思います。この議論で何度も言っていますとおり、無理やり黒字にしているというのが正直なところだと思います。この審議会でも黒字にするということは何とか耐えて達成していただきたいというのは、審議会として総意です。ただ、財務の内容そのものは危うい部分があり、多くの前提条件をクリアして初めて黒字にしている。それでも経常収支比率を見ると年々悪化していくということで、まだまだ努力が足りないというように思います。それを大綱の第5章で喫緊課題を提示させていただきました、さらなる努力をお願いしたいという、そのための努力目標を作らせていただきたいということです。例えば、歳出はギリギリまで切り詰めていただく必要がある。歳入は徴収率アップで成果を上げてきていますが、これもほぼ限界が近いということです。先ほども申しましたが、新しい市税の財源を探すということが、やはり職員にも、市民にも、市議会の議員さんにも求められるのではないかと思います。これは銚子市の市民・住民・市役所が一丸となって、新

しく作り出さなければ、恒常的に財政再建というのは成立しないのではないかと思います。それが半年くらいやってきた審議会の1番の肝の部分になると思います。そういうことに対してこの審議会で答申を出しても、結局は事務方の判断あるいは答申を審議する行革推進本部の判断で、骨抜きになるようなことがあってはならない訳ですので、明確に共通理解が得られる喫緊課題にしていきたい。往々にしてあるのが、出来もしないことを課題にするケースがありますので、そういうことは決してしてはならないということを申し上げて置きたいと思います。努力すればできるということは課題になります。努力してもどう逆立ちしてもできないというようなことは、喫緊課題にならないということでこの5番目の項目を作り上げたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思います。以上を持ちまして2時間経過しましたので、本日の審議会は、特に質問がなければこれにて終了したいと思います。最後に今後のスケジュールについて説明をお願いします。

財政課

(資料5に基づき説明)

伊永会長

広報活動をされる訳ですが、これは審議会の中でも色々意見交換してきたのですが、この大綱の概要版のようなものを作ってはどうかと、それを「広報ちょうし」の中に収録していただいた方がいいじゃないかというような意見がありますので、次回までに結論出したいと思います。それで審議会としての希望事項を受け止めていただければありがたいと思います。

大塚委員

スケジュールに関して、大綱案の中に実は色々28年度中に計画を作る、基準を作るというのが盛り込まれています。大綱が決定されてからそれらの計画策定に取り掛かるのでは到底年度内の作成は無理だと思いますので、例えば公共施設の管理計画であるとか、使用料・手数料の見直しの問題であるとか、定員適正化の問題であるとか、28年度中に計画を作るとされているものについては、できるだけ早く、その作業に掛かっていただけたらと思います。

政策企画部長

大綱の中に位置付けられている計画等の策定は、当然今年度中に仕上げるものは、今年度中に並行して実施していくつもりです。

伊永会長

3 閉会

それでは本日の審議会をこれにて終了させていただきたいと思います。